

1 教材

教科書 『Element —English Communication I—』(啓林館)

Lesson 3 : How Asians and Westerners Think Differently

2 指導観

いかに文法上の説明をせずに関係代名詞 **who** を使わせるかが重要な鍵と考える。説明を省き、活動によって英語力を養う際、説明は紙面の文章や口頭によるものではなく、図や写真、例文を効果的に提示し、直感で気付かせる形態が有効であると考え。英作文の活動も同様に、画像と例を見せることで行う。グループワークやペア・ワークも行うが、数値で評価せず、生徒同士や教員からのフィードバック(数値に頼らない評価)で生徒自身の能力向上をねらう。教員は生徒の多少間違った使用法に気付いても、間違いを直ちに修正するのではなく、活動中の生徒自らの気付きにより、単元終了までに正確性を高めたい。教員がその曖昧性に耐え、生徒の英語能力の芽を摘まないようにしたい。

3 教材観

この単元では、アジア人と西洋人の考え方やものの見方の違いを理解するとともに、それを受け入れ、グローバルなコミュニケーション能力を養う。異文化コミュニケーション学の観点から、西洋文化とアジア文化に優劣はない(cultural relativism)。しかし、現代においては、欧米中心主義の考えが広く根付いているため、文化的に西洋の方がアジアより優れているという概念が人々の中にいまだ残っている。このような西高東低の文化的な考えの多くは、生活の中に自然に隠れている。”glocalize”という言葉も近年では知られているが、他文化を受け入れつつ、自文化を大切にするというまさに glocal なビジョンと文化的なバランス感覚を養うには適切な教材といえる。

言語材料は、関係代名詞であり、中学校での既習内容を確認しながら、会話や英作文の活動で扱う。世界的に有名なマンガやスポーツ選手を演習で使う画像に登場させることで、グローバル化やグローカライズといった本文にリンクする内容にも触れる。

4 単元の目標 : Lesson 3

観点	具体の目標
① コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ● 言語活動に積極的に参加し、相手の話を聞いたり、自分の考えを主体的に話したりする。(本時) ● 自分の考えや意見を論理的に書いたり話したりすることで友達に伝えようとする。 ● 友達の意見を尊重し、ペア/グループ活動の中で円滑にコミュニケーションを図ろうとする。
② 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ● 「1 min speech」において WPM40 以上で本文についての自分の意見や、その他トピックに応じて話すことができる。 ● 関係代名詞を用いて、友達や自分のことについて書いたり話したりして表現することができる。(本時) ● 各パートの本文を 3~5 文の英語で要約することができる。
③ 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習の表現を用いた WPM50 以上の英文を読んで理解することができる。 ● 各パートにおける文法事項を含む英文を読んだり聞いたりして理解できる。以下 Part 1: 《S+V+O (疑問詞節)》《関係代名詞 (主格) that》 Part 2: 《関係代名詞 (主格) that》《which で始まる疑問詞節》 Part 3: 《疑問詞節 why》 Part 4: 《前置詞の目的語になる疑問詞節》
④ 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 物事を捉える際に、西洋人はカテゴリー、アジア人は関係性という視点で考えるということを理解できる。 ● アジア人と西洋人のものの見方の違いを理解し、カテゴライズという視点から文化的相違を考えることができる。 ● 言語と文化の関係性を異文化コミュニケーション学の視点で捉え、それを理解することができる。

7 指導計画

指導内容	配当時間
Lesson 3 に入るための導入 1. “1 min speech”：Topic→ “The movie that I really love.”（帯活動） 2. パワーポイントの絵や写真を見ながら英作する。（関係代名詞の練習） 3. 関係代名詞を用いてピクチャー・カードの内容について友達と会話する。	50分 （本時）
Lesson 3 Part 1 文法事項：《S+V+O（疑問詞節）》《関係代名詞（主格）that》 1. アジア人と西洋人の思考の違いを理解する。 2. 《S+V+O（疑問詞節）》を理解し、それを使う。	50分
Lesson 3 Part 2 文法事項：《関係代名詞（主格）that》《whichで始まる疑問詞節》 1. “1 min speech”：Topic→ “The people who litter in public places.” 2. アジア人と西洋人のモノの見方について理解する。 3. ポイントとなる文法事項を含む文を用いて友達とコミュニケーションを図る。	50分
Lesson 3 Part 3 文法事項：《疑問詞節 why》 1. 西洋人のカテゴライズについて理解する。 2. 「疑問詞節 why」を含む英文を読んで理解する。	50分
Lesson 3 Part 4 1. アメリカ人と日本人の世界観の違いを学習する。 2. 本文のレシテーションテストを実施	50分

6 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

ア 関係代名詞を用いて、友達や自分のことについて書いたり話したりして表現することができる。

イ 言語活動に積極的に参加し、相手の話を聞いたり、自分の考えを主体的に話したりする。

(2) 評価規準

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、相手の考えなどを聞いたり自分の考えなどを主体的に話したりしている。	絵や写真、また友達や自分のことについて、関係代名詞を用いて英語で相手に伝えることができる。		

(3) 評価規準「②外国語表現の能力」の詳細について

評価規準「②」	評価のポイント
絵や写真、また友達や自分のことについて、関係代名詞を用いて英語で相手に伝えることができる。	A: 絵や写真を見て関係代名詞を用いて英文が書けた。習った英語表現を使い、友達にスムーズに尋ねたり、自分の考えや想いを伝えたりすることができた。 B: 絵や写真を見て関係代名詞を用いて英文が書けた。習った英語表現を使い、友達に英語で話すことができた。 C: 以下の①、②のどちらかに当てはまる。 ①絵や写真を見て関係代名詞を用いて英文が書けなかった。 ②習った英語表現を使い、友達に英語で話すことができなかった。
<p>♣Aの例（パワーポイントによる英作例） “Luffy is a person who likes to eat.” “This is the person who works on the farm.” “Doraemon is a cat-type robot who loves to help Nobita-kun.” →person を使うかどうか、またロボットに対して who を使うかに注目！</p>	
<p>♣Cの生徒への手立て</p> <p>① ア. 時間が足りなかった。 →パワーポイントの初めのスライドを印刷し、課題として家で英作をさせる。納得の仕上がりになるまで諦めさせず、最後は良い英作例として後日全体に紹介する。 イ. 関係代名詞を理解できなかった。 →ワークシートのコメントでフィードバックする。一度で理解することよりも、何度か使うことで覚えることを意識させる。今後4回の授業の中で改善が図れないならば、補習を行う。</p> <p>② ア. 習った英語表現が使えない。 →①のアと同様。 イ. 友達に話し掛ける勇気がない。 →教師が代わりにペアになり同様の会話をしてみる。</p>	

7 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な 評価の観点	評価 方法
8分	1.Greeting 2. “1 minute speech”	<ul style="list-style-type: none"> ●トピックについて1分間スピーチする。 ・【帯活動】1グループ4人 →2名はスピーチ内容を聞き、1名は語数を数える。 →ワードカウンター（カード）か、カウンターを用いる。好みの方を選ぶ。 →日によっては、ペア・ワークとなる。(時間短縮) 	<ul style="list-style-type: none"> ・トピックは<u>関係代名詞を自然と使えるようなもの</u>にする。 ・数えている人以外は聞いた内容を英語でメモさせる。(→時間がある日は、内容を尋ね合う活動を盛り込む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・WPM40以上でトピックについて話すことができる。(②) 	ワードカウンターカード（1分間でペアが発話する語数を数え、記録する。）
37分	1.Linguistic Activities 01 (15分) 2.Linguistic Activities 02 (10分) 3.Linguistic Activities 03 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> ●関係代名詞を（whoを中心に）学ぶ。 ・説明なしで、例文を見たり聞いたりしながら文法の使い方を理解する。パワーポイントの絵や写真を見てオリジナルの英文を作る。 ●寿司職人やドラえもん、友達の家族がどんな人物/キャラクターか尋ね合う。 ・3人以上尋ね、聞いたことをメモし、最後に発表する。 ・話したり聞いたりすることで、習った文法が通じることを体験する。 ・クラスメートが作った英文に触れ、参考にする。 ●ピクチャー・カード（何か活動をしている人のイラストが複数描かれている）を見て、ペアで質問し合う。 ・質問やその応答については、関係代名詞を自然に用いるように展開する。 Student A：カードAを使用 Student B：カードBを使用 カードA：イラストの人物に名前が入っていない。 カードB：イラストの人物に名前が入っている。 ・Student Aがstudent Bに人物の名前を尋ねる。(関係代名詞 whoを用いる) Ex) A: “What is the name of the <u>person</u>(<u>man/woman/boy/girl</u>) <u>who</u> is walking down the street?” B: “He / She is Masashi.” Bが聞き返すことも想定 B: “You mean <u>the person</u> <u>who</u> has a paper bag?” A: “Yes.” B: “His name is Masao.” 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペルに不安があっても英語で書かせる。 ・間違いの指摘の仕方にも注意する。良いところを見つけて、褒める。 ・よくできた英文はWordにメモするか、写真に撮り、最後にスクリーンで紹介する。 ・友達に話し掛ける際に、英語力以外の面で困難を要する生徒を支援する。 ・聞きながらメモをするという作業を必ずさせる。 ・ワークシートは最後に提出させ、スキャナで読み取り、よくできた英作は次回のワークシートで紹介する(Feedback)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスメートの話を聞いたり、クラスルーム・イングリッシュなどを用いたりして、積極的に活動に参加しているか。(①) ・関係代名詞を用いて絵や写真について、また自分や友達について表現できているか。(②) 	活動の観察、及びワークシート
5分	2.Wrap-up	Ex) JTE: “What is the name of the person who is . . . ?” Students:” He is”	① 本日の学習内容をオーラルで全体/個人に確認する。 ② 次回の案内		